

生坂村への アクセス



移住を考えている方は下記までお問合せください

生坂村役場 村づくり推進室
長野県東筑摩郡生坂村5493-2

TEL:0263-69-3111
FAX:0263-69-3115

<http://www.village.ikusaka.nagano.jp/>



長野県地域発元気づくり支援金を活用し、作成しました。

ともに
生きていく

長野県生坂村
移住定住パンフレット

生坂村

(断熱)リノベーション工程・体験談付

生 坂村は犀川の清き流れと緑のやまなみに抱かれた自然豊かな村です。犀川沿岸の段丘地に水田、畑が散在し、渓谷美の山清路、雄大な大城・京ヶ倉の山並み、一日の寒暖差によって発生する、柿やぶどうなどを育む川霧や、スカイスポーツ公園から望む雲海など、水辺と里山が織りなす山紫水明の豊かな自然に恵まれています。

自然豊かな生坂村は、子どもたちが明るくのびのびと学び成長するうえで、理想的な環境を備えた村です。一人ひとりの個性を尊重するきめ細やかな教育指導が行われ、農作業、村民行事、自然、文化とのふれあいを通じ、人間的な奥行きと自立心を持った情緒豊かな子どもたちが育っています。

また、ここで暮らす人々は、小さな村が故、手を取り合い、相互扶助しながら、お互いが尊重し合い、暮らしております。

本冊子では、この村で大切な家族とともに新しい生活をはじめた3組の移住者家族の声と自ら行った自宅リノベーション、村が行っているリノベーション塾を中心にお届けします。また生坂村での住まい・仕事・子育て補助、支援等についてまとめて記載させていただきました。

自然環境に恵まれた環境の中で子育てがしたいという方、古民家をリノベーションして、田舎暮らしを満喫したいと思っている方等々、是非一度、生坂村へお越しください。素晴らしい自然環境と村民とともにお待ちしております。

面積	39.05km ²
人口	1,688人(2023年1月31日現在)
世帯数	721世帯
気象情報	
最高気温(2022年)	37.4°C
最低気温(2022年)	-13.8°C
平均気温(2022年)	11.5°C
村のシンボル	
村花	ツツジ
村木	カシワ



鶏とともに

拓郎さんご一家・千葉県木更津市より移住



養鶏が食品ロス解消などの
地域課題解決に貢献!?
ニワトリに会える直売所
にわにわ自然養鶏も
オープンしました!!

Profile
拓郎さん 30代
由輝子さん 40代
長男 4歳
次男 0歳

Q1.今までの生い立ちについてお聞かせください

1987年千葉県生まれ。10代で現代美術と出会い、独学で制作、発表を始めました。広い世界に興味を持ち旅を始めたのですが、東日本大震災を機に食やエネルギー、環境問題等に関心を持つようになりました。芸術（生きる）を創造する意義や本質を求め、2014年より千葉県の里山に住む、百姓の祖父の元で自給自足の生活を3年半実践してきました。2017年、結婚を機に生坂村へ移住。現在、集落支援員として村で働きながら、村内の未利用資源に着目し地域循環型の養鶏業を始めています。

Q2.生坂村へ移住しようと思った経緯(知ったきっかけ～決意したまで)をお聞かせください

千葉県にはない信州の文化や暮らし、自然環境へ憧れを持ちました。田んぼ、畑、水（井戸）や木（燃料）が自給できる住環境が理想の条件になりました。空き家バンクで見つけた家も、自由に改装して良いとのことで非常に恵まれました。そして仲間もいた生坂村への移住のハードルは高くなかったです。

Q3.移住する事について心配だった事とかはありますか？

この道はどこへ行くのか、あの人は、どんな人なのか、家探しから仕事も買い物も気候も地理も、まるで旅をしている様な不安もありましたが、好奇心に身を任せました。

Q4.生坂村に移住してみて、最初の頃から今に至るまでの経験談や思い出をお聞かせください

「だで」「ながら」…、地域の風習を理解しようと、先ずは言葉(方言)やイントネーションの違いを理解することからの始まりでした(笑)。気になる事は、「聞く」そんな性格ですので、知らない人や知らない事に出会える事は喜びでした。

Q5.生坂村での子育てについてお聞かせください

地域の方々からも、子どもを可愛がっていただき、共に成長を喜んでくれることが、なにより幸せです。家族や仲間家族と野良仕事をし、皆で食卓を囲めることが幸せです。お陰様で、健やかに子どもは育っています。

Q6.実際住んでみての生坂村の魅力はどういったところでしょうか

素朴な民家や、里山の景色に和みます。その背後には北アルプスが鎮座し、朝焼けも夕焼けも、春夏秋冬、圧倒されています。田舎は不便とも言われますが、手間なく便利すぎる現代では、決して得られない生坂村ならではの時間と豊かさがあります。

Q7.近隣の地元住民の方や地域のコミュニティとの関わりについてお聞かせください

僕は生坂村ならではの風習や知恵から、道理や歴史を感じた時に、心に染み渡るモノがあります。正直、地域との関わり方は、良くも悪くも自分の興味次第ではないかと思います。例えば現実問題、少子高齢化など、今後どう工夫し乗り越えてゆくか地域課題としてありますが、村や常会という組織が小さいだけに、中身が見えやすく、自分ごととして、関わりやすいのが、特徴の一つではないでしょうか。

Q8.将来の夢や目標(仕事・家族など)についてお聞かせください

仕事として地域循環型の養鶏業を始めました。地域から排出される資源(のこくず、おから、古米、米ぬか、野菜くず等)を未利用資源と位置づけ、自家配合の発酵飼料をつくり、鶏の健康(アニマルウェルフェア)を第一に平飼いしています。現在、「鶏に会える直売所」を建設しています。人と鶏が循環する関係や、1つの卵が産み落とされるまでの重みを、体感していただき、また人々との繋がりを大切にしていきたいです。小さな養鶏場ではありますが、持続可能な畜産を表現し、地域や社会に貢献できればと考えています。

Q9.現在の仕事を始めた経緯と始めてから楽しかった事や、大変だった事などをお聞かせください

集落支援員としての経緯は、地域のことを、広く深く知りたいと思いました。例えば林道を維持管理する作業では、道や山の歴史を知ることができます。そのように村内全域の点と点が繋がっていく様子が面白く、やりがいや、村への愛着も感じるようになりました。養鶏業の経緯としては、先ず過度な生産や消費や廃棄に繋がる一方方向の仕事には、やりがいを感じません。鶏は人間が排出する食品残差も食べますし、鶏糞も大地に還し、次の命へ循環します。鶏は庭の草も食べてくれますし、無論、卵や肉もいただけます。餌となる飼料も、わざわざ輸入飼料に頼らずとも、地域の未利用資源で賄えます。鶏を通して無駄なく地域循環を生み出すことが、小さいながら、今、自身にできる最善の取組みと考えています。

Q10.これから生坂村へ移住を検討している方へのメッセージをお願いします

小さな村での生活も、自分1人の力や考えでは、生きられない事を強く感じます。家族、集落、村、社会、大自然、どれも役割があり、互いが支え合っている事に気がつくと、感謝の気持ちが湧き溢れます。どこへ移住しようとも、自身を受け入れてくれる地域や自然との関わりを大切にすることだと思います。



ニワトリに会える直売所
にわにわ自然養鶏

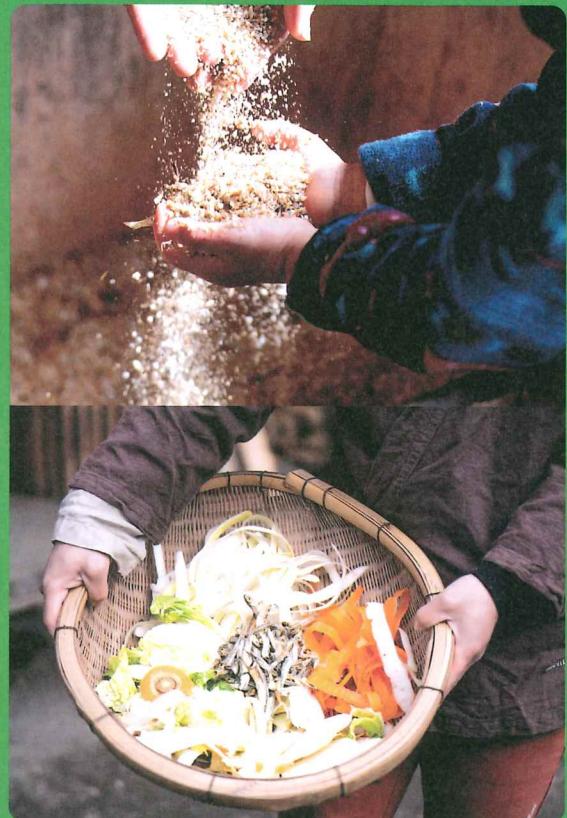
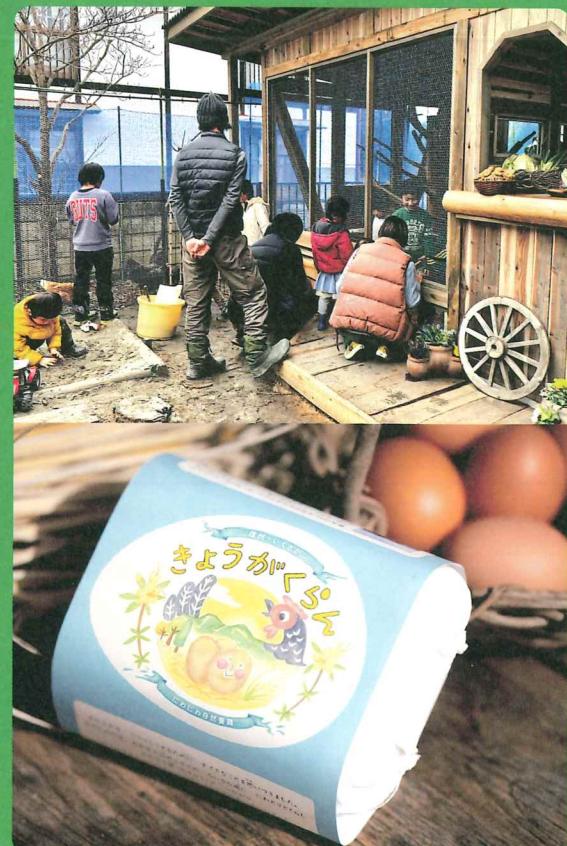
住所：生坂村 7997





↑純国産鶏の「あずさ」と「岡崎おうはん」平飼いにより、自由に動き回り、鶏本来の習性に沿った生活ができる。ストレスが少なく、健康を維持でき、良い卵を産みます。

→地域の農家、飲食店、学校給食センターなどから、廃棄される食材を集め、発酵飼料を手作りしている。食品ロスや環境に配慮した地域循環型の養鶏を目指している。



←2023年2月25日には「ニワトリに会える直売所にわにわ自然養鶏」もオープン!!こちらの建物は、大工さんの手を借りながら、自分で出来る工事は自ら行い、連日夜9時頃まで作業をして完成させた、拓郎さん渾身の力作。中には止まり木もあって、金網越しに鶏に餌をあげれたり、卵を産むところも間近に見れて、その卵が外にある産卵箱に転がってくるという、養鶏が本当に身近に感じられるナイスな直売所。「子供から大人まで、鶏と触れ合い、食の循環など色々感じて欲しい」と拓郎さん。オープン初日には、近所の子供たちが駆け付けて大盛り上がりだったそう。

こちらで採卵された卵は、村を代表する山「京ヶ倉」にちなんで「きょうがくらん」と名付け、ブランド化を目指す。デザイナーの奥様が制作した可愛らしいパッケージには黄身の色にも似ている、京ヶ倉に咲くヒカゲツツジのイラストも描かれている。お二人の将来の夢は、鶏や自然を題材とした絵本を出版する事だそう♪

古民家に暮らし、D.I.Yを楽しんでいる移住者の方に聞いた自宅リノベーションのこと。

Q1.ご自宅や鶏小屋をご自身でリノベ・工事するにあたり、どのように進めてこられましたか?苦労した点や楽しかった事など、ございましたらお教えください。

建物を取り巻く環境に、建物は影響する事が面白いです。気温、湿度、光、雨、風など、春夏秋冬コンディションが異なります。環境を読み取り、生活動線やデザインまでを形とする作業は実に創造的です。気候や土地や材料などを知ることは、大袈裟ですが、自然の摂理を知ることと似ています。知ったつもりでも、自然はそれを超えてきますし、自然と共に存できた時は、喜びです。

Q2.リノベーション工事を行うにあたって、大切な事(体験談をふまえて)などはございますか?

例えば耐震のこと、電気やガス工事など、DIYでは行えない、危険な工事が様々ある事を先ずは理解すること。僕の様な素人DIYでは、家具を作ったり床を張ったり、そんな程度ですが、しかし手を動かしてみると、世界が広がっていきます。たった5mmの誤差が、後々になり失敗と気がつき、立ち止まります。先に進むには、どうすれば良いのか考えに考え、道筋が見えた!と思ったら、また失敗、そんな調子です(笑)。

Q3.リノベをご自身で行うのは今回が初めてですか?またやろうと思ったきっかけは?

初めてです。かっこつけて言いますと、暮らしに必要な知識や技術を、最低限、身につけたかったからです。お金があれば、人に頼んでいたかもしれません…。

Q4.工事期間はどのくらいかかりましたか?

現在も進行中です(笑)。

Q5.これからリノベーションを自分で行おうと思っている方へ、アドバイスなどございましたらお教えください。

アドバイスなど、おこがましいですが、先日、丸ノコで足の指を切りそうになりました。安全靴を履いていたので、助かりました。気を取られていたため、危険を予測できませんでした。危険な道具や作業は、無理に行わない範囲で、日々の暮らしを共に楽しみましょう♪



安曇野の方から、不要になった薪ストーブを譲り受け、拓郎さん自ら設置工事を行った薪ストーブ。煙突と壁との取り合いには、細心の注意を払い、絶対に火事にならないように施工を行いました。信州の冬、薪ストーブがあるとほんと重宝します♪



こちらも古民家から出た廃材を用いて、拓郎さんが作った砂場。息子さんも毎日遊んでいます!さらにパンクしたタイヤを埋めて遊具に!!

ハワイアン料理とともに

楳紀さんご一家・神奈川県川崎市より移住



**渡ハ歴70回以上、
ハワイを愛する楳紀さんが
選んだ定住の地は生坂村。
生坂村にハワイの風が
吹きはじめました。**

Profile

楳紀さん 40代
英治郎さん 50代
長男 小5
長女 小2
次男 年少

Q1.今までの生い立ちについてお聞かせください

埼玉県春日部市で生まれ育ち、3人兄弟(兄、弟)の真ん中でいつも外で泥んこになっていました。中学受験して進学したいと言って猛勉強したり、海外に憧れて沢山アルバイトをしたり、長男を出産後、服飾専門学校へ進学して老舗紳士服店で勤務し、その間に更に2人出産。やりたい事を見つけるエネルギーは人一倍あった様に思います。

Q2.生坂村へ移住しようと思った経緯(知ったきっかけ～決意したまで)をお聞かせください

国内外問わず旅行が好きだったので毎シーズン出掛けっていましたが、新型コロナで出掛けられなくなり、非日常を求めて安曇野の貸し別荘に滞在した事がきっかけです。景色や環境がとても気に入り、決意するまでもなく帰り道で別荘を探し始めました。そして、探しているうちに別荘より古民家を自分仕様に直しながら生活するのって面白そうだなと思い、徐々に検索ワードが古民家になっていきました。

Q3.移住する事について心配だった事とかはありますか?

夫の仕事や子供達の学校、幼稚園はどうするのか?
2拠点生活になるとしたら川崎と生坂の距離が遠くないのか?

Q4.生坂村に移住してみて、最初の頃から今に至るまでの経験談や思い出をお聞かせください

冬に水道管が凍って蛇口から水が出て来なかった事。防災無線が全戸に配布される事。国産松茸(かなりデカいやつ)をお裾分けでいただいた事。鹿やクマが出没する事。水道水をそのまま飲んで全く問題ない事(むしろ美味しい)。コンビニが徒歩圏内にない事。雪かきがすごく重労働だって知った事。その他書ききれません(笑)。

Q5.お子さんを連れての単身移住とお伺いしました。 生坂村での子育て、単身生活についてお聞かせください

とにかく何をするのも全て一人でしないとどうにもならないので、大変さもあります。でも近隣の方々に沢山助けていただいてとても楽しく暮らす事が出来ています。

Q6.実際住んでみての生坂村の魅力はどういったところでしょうか

遠くに見える山々や犀川の美しさ。冬のキーンとした空気。買い物に行かなくても近くにある山の幸。

Q7.近隣の地元住民の方や地域のコミュニティとの関わりについてお聞かせください

月1回の常会費の集金時に、何気ない会話をしながらお互いの健康確認ができたり（笑）、お正月の三九郎、お盆の提灯の飾り付けなどの伝統行事や、年に数回の除草作業を通して地域との関わりがあります。

Q8.現在の仕事を始めた経緯と始めてから楽しかった事や、大変だった事などをお聞かせください

始めは、小学校へ通う娘のママ友に紹介していただきブドウ農園でアルバイトをしました。オーナーご夫妻は子育ての先輩でもあったのでPTA活動の立ち回り方をはじめ、生活全般の分からぬ事を仕事をしながら教えてくださいました。困っている事など、もう文字通り何でも教えていただきました。話がそれますが、ぶどうの仕事で汗かいだ後に見る生坂の景色は最高でした～。ある時「ハワイが好きで何度も渡してるんですよ～!いつかカフェを開店してワークショップなどを開催してみたい」と話したら、不思議とやって見ようと言うパワーがみなぎってきました。開業した時は経営などの経験ゼロだったので、調べまくっては色々回り道をしたり(今でも)の生活です。大変だったのは調理場をほぼ自力で改装した事です。床、壁、天井、壁紙、全て家族総出で作りました。1ヶ月で工事と保健所の検査を受けるまでを済ませ、すぐに開店したのにかく忙しかったですが、楽しかった。開店してから、初めの頃は売れ残るのが本当に悲しくて…近頃は「応援しています」と声をかけてもらったり、予約注文してくださる方も増えてきて嬉しいです。今は、生坂の食材を使った惣菜や新しい商品を考えたりすることを頑張っています。皆さんに『カナリヤ』を食べて満足してもらえたならと思ってます。

Q9.将来の夢や目標(仕事・家族など)についてお聞かせください

今年、露天風呂に近いくらいの寒さのお風呂場を改修したいと思ってます。
(本当は昨年取り掛かる予定でしたが予定していた部屋を調理場にしてしまいました。)

Q10.これから生坂村へ移住を検討している方へのメッセージをお願いします

冬はとても寒くなります。夏も決して涼しい訳ではありません。が、色々な困難を工夫して過ごすうちに少しづつ馴染んでき、毎日が楽しいって感じられると思います。



Hawaiian cafe&deli カナリヤ
道の駅いくさかの郷、
ファーマーズガーデン明科
にて販売しています。



↑お弁当はハワイの定番「ロコモコ」や
「ガーリックシュリンプ」など数種あり、
お米はもちろん生坂米を使っています!
肉の加工卸業を行っている実家から
新鮮なお肉を取り寄せ、調理しています。

→スパムむすびの具材には、野沢菜漬けも!
シャリシャリとした食感と塩味も加わり、
スパムむすびにベストマッチ!!



ご近所の方と、自宅の前で立ち話。
「この前食べた、エビのお弁当
美味しいよ～」という一言が、
何よりも嬉しいです♪

古民家に暮らし、D.I.Yを楽しんでいる 移住者の方に聞いた自宅リノベーションのこと。

**Q1.ご自宅や調理場をご自分でリノベ・工事するにあたり、
どのように進めてこられましたか?苦労した点や楽しかった事など、
ございましたらお教えください。**

まずは手本になりそうな雰囲気の画像などをwebや出掛けた先の気に入った場所で集めてネットでどうすればこうなるのか(工程や材料)を調べまくりました。既製品に近づき過ぎると安っぽくなりそうだし、独創的過ぎると使いづらくなりそうなのでうまく計画を立てるのが出来た時の満足度も高い気がします。計画して色々シミュレーションしている時が楽しかったです。苦労は書ききれない程です。セルフDIYだとなるべく自分でやるので体力、気力が必要。でも苦労なんか忘れちゃいます。

**Q2.リノベーション工事を行うにあたって、
大切な事(体験談をふまえて)などはございますか?**

今(現状)より使い勝手が良くなれば成功。少し位置がズレたとか、思っていたのとちょっと違う…とか完璧を求めすぎない方が良い。

Q3.リノベをご自分で行うのは今回が初めてですか?またやろうと思ったきっかけは?

実家の自分の部屋などを学生の頃から床を張り替えたりしていました。きっかけは特にないですが、ものづくり全般が好きです。

Q4.工事期間はどのくらいかかりましたか?

工期はやるボリュームによって違いますが簡単な所は数時間、部屋丸ごと行った調理場は、営業許可を取る日を先に決めていたので1ヶ月毎日フルで作業しました。大きな改修は完成時期を決めないとダラけてしまって終わらないかも。他の部屋は床の張り替えだけとか壁も作り替えないでクロス張り替えだけとかペンキで色を塗り替えただけとかです。

**Q5.これからリノベーションを自分で
行おうと思っている方へ、
アドバイスなどございましたら
お教えください。**

単に安くできるから自分でやると言うのはあまりおすすめしないです。(もちろん安く出来ることが多いですが工具類もなかなか高価)自分でやるからには業者では出来ないようなこだわりを入れたら世界に一つだけの価値が出て使い続ける楽しさを感じられて良いと思います。



楳紀さんのお家は、築120年の古民家。エネルギーッシュな楳紀さんは、出来ることは自分の手で行い、古民家Lifeを満喫しています。屋根は昨年、業者さんにお願いし、好みの色に塗装してもらったそう♪



家族総出で1ヶ月間かけて完成させた調理場。床、壁、天井、壁紙は自ら行い、電気・設備工事は業者に依頼。コンロはもちろん、揚げ物が出来るフライヤーもあります。

葡萄とともに

卓さんご一家・神奈川県川崎市より移住



**独立就農後の定着率が
高い生坂村。
畑で家族と過ごす時間は
かけがえのない時間に。**

Profile

卓さん 40代

莉紗さん 30代

長男 2歳

Q1.今までの生い立ちとぶどう農家になろうと思った経緯について聞かせください

神奈川県川崎市で生まれ育ち、40数年間、都市部での生活しか知りませんでした。大学は農学系、森林や野生動物を専門としていました。前職も野生動物関連の仕事で、野生動物の調査・研究のため、関東近隣の山々や山村へはよく通っていました。そうした生活の中、田舎で暮らしでみたいなと思うようになりました。田舎でどう生活をするかを考えた時、農業を生業とするのも面白いかもしれないと考えるに至りました。自分の性格的に、都市部での生活の恩恵をそれほど感じていなかったことも、田舎での暮らしに魅力を感じた要因かもしれません。

Q2.生坂村へ移住しようと思った経緯(知ったきっかけ～決意したまで)をお聞かせください

実家はもちろん、親戚にも農業をやっている人がおらず、農業で生計を立てるということがどういうことか、正直なところイメージができませんでした。農産物といつても、スーパー・マーケットか、せいぜい八百屋さんで売られているものを見るくらい。店頭での価格を見たときに、作るなら野菜より果物の方がまだ生活できそうかなというぐらいの考え（笑）で、果樹で新規就農できそうな場所の情報収集を始めました。その中で、たまたま生坂村の就農研修の話を聞き、現地を見学に訪れ、住居や圃場の確保が確実なタイミングだったため、移住を決めました。あとは、実家のある川崎からもそれほど遠くないことや、山が好きなので北アルプスが近いことも移住を決める要因になりました。

Q3.移住する事について心配だった事とかはありますか？

生活が一変するであろうことに不安はなかったのですが、就農するにあたっては主に3つの不安がありました。まず、3年間の研修期間に加えて、満足な農業収入が得られるまで何年かかるか見通しが立たない上、その期間ずっと減収が確実だったので、資金の準備がいったいどれほど必要なのかということ。ぶどうが作れるようになったとして、どう売ればよいのかということ。農業で本当に食べて行けるのだろうかということです。独立・就農して2年が経ちましたが、移住前に不安だったことはほとんど解消されています。いざ始めてしまうと、どうにかするしかなくなるので、現在では何とかしようという気持ちと、どうにかなるんじゃないかという気持ちが半々という感じです。ちなみに移住前は、都市部での生活に比べて、田舎暮らしの方が生活費はかかるのではないかと思っていたが、実際には都市部の生活よりお金がかかっているかもしれません。主な要因は、車移動のためのガソリン代と車の維持費、プロパンガスの料金、暖房用の燃料代です。生活のスタイルが以前とは大きく変わったので、お金がかかるところもだいぶ変わりました。

Q4.生坂村に移住してみて、最初の頃から今に至るまでの経験談や思い出をお聞かせください

移住当初まずカルチャーショックを受けたのは、地域の自治会の組織についてでした。我々が住んでいる地域（旧部落、こちらでは常会と呼びます）には19世帯あり、その19世帯が常会

長のもと4つの組に分けられていました。一組だいたい5世帯で、各組には伍長さんがいます。初めて聞いたときは、「えっ、五人組!? 伍長!? ここは戦前か戦時中??」というのが正直な感想でした（苦笑）。もう一つ衝撃的だったことは、何事についても誰も分かるように説明してくれないということでした（苦笑）。就農研修の期間中も「おーい、〇〇持ってきてくれ!」「え? 何ですか?」「〇〇だよ。上のあそこにあるから」「え? 何ですか? どこですか?」みたいなことが多々ありました。そもそも名前も知らなければ、使い方も知らない道具に触れるようになったばかりで、土地勘も乏しかったので、一度聞いても分からなかつたという事情もありますが、今になって思うとそれだけでは無かったように思います。活動の範囲や中身が限られていると、共通認識できてしまうところが広がるため、事細かに言葉にしなくとも伝わってしまうのではないか。意地悪をされているわけでもなく、強い訛りがあるわけでもなく、会話もしているのに、話の中身が分からない（苦笑）。まるで外国にいるみたいだなと思ったのも遠い記憶で、最近では自分の話し方も染まりつつあるような気がします（笑）。

Q5.生坂村での子育てについてお聞かせください

たまたま、第一子が生まれたのが2020年、新型コロナウィルスのパンデミックが始まった年でした。都市部での子育ての経験がないので想像するしかありませんが、生坂村での子育ての方がストレスは少なかつたんだろうなと思います。村内でも時折、感染者は出ていましたが、日中畠に出る生活では、ほとんど人と会わないので（笑）、マスクをするのも買い物に出るときぐらい。買い物の移動も車なので、小さい子どもがいてもあまり神経質になりませんでした。子どもを外で遊ばせたいときは、ぶどう園が家のすぐ近くなので、一緒にぶどう園へ出していました。ハイハイの頃からぶどう園をはいり回っており、最近ではぶどう園の中で一緒にボールを蹴って遊んだりもします（笑）。保育園も自営の農家ということでスムーズに入園できました。子どもが多くはない環境なので、近所の方々も含め、たくさんの人見守られているなど感じています。都市部でサラリーマンをしながら子育てをする生活を想像すると、生坂村で農業をしている今の生活は、とても多くの時間を子どもと一緒に過ごしているんだろうなと思います。子どもがもう少し成長して、何か特別な習い事をしたいというようなことがあると、地理的に不便を感じるかもしれません、今のところ生坂村での子育てには満足しています。

Q6.実際住んでみての生坂村の魅力（生活面、農業面）はどういったところでしょうか
最寄りのコンビニまで車で10分という環境で、自動販売機で飲み物を買ったり、ガソリンスタンドで給油したりは村内で済ますが、それ以外はほとんど村外のスーパー・マーケットなどに買い物に出ます。でも、日々の買い物に出るだけで、白馬三山から常念岳に至る北アルプスの四季折々の様子を眺められたり、冬空に舞う白鳥の姿を眺められたりする日常は、とても贅沢だと思います。生坂村はものすごく山深い立地ではなく、車で30分も走れば松本市街なので、程よく田舎暮らしができます。ぶどうの繁忙期は想像を絶するぐらい忙しく、全くゆとりが無くなりますが、それ以外の時期は四季の移ろいを肌で感じながらゆったりとした時間を過ごしています。農業についてと言ってもぶどうのことしか分からないのですが、ぶどうに関しては、すでに生坂産のぶどうのブランド化が進んでいたことでとても助かっています。生坂村は長野県内の

北信地域のような大規模産地でこそありませんが、村内の名勝に因み「山清路（さんせいじ）巨峰」と銘打った巨峰が味わい深く、生坂のぶどうは美味しいと認知されてきた歴史があります。そのため、ぶどうの時期になると県内外からぶどうを求めてお客様がやってくるので、新規就農者でも美味しいぶどうさえ作れば売り先には困りません。また、近隣に松本や安曇野、白馬といった観光地があるので、9月のシルバーウィークはぶどうを運んで直売所まで一日に何往復もする日々です。

Q7.近隣の地元住民の方や地域のコミュニティとの関わりについてお聞かせください

都市部で生活していると、自分たちの生活を成り立たせるための活動は仕事になっていることも多く、自分が汗をかかなくても対価を払うことで、自分の知らないところで、自分の知らない誰かがいつの間にかやってくれていることが多々あると思います。自分もそうでしたが、知らない誰かがいつの間にかやってくれていたことにさえ気づかない人も多いのではないかでしょうか。一方、田舎では、もともと自分たちの生活は自分たちの手で成り立たせようという意識が高かったと思うのですが、自分たちでやることがたくさんあります。にもかかわらず、過疎・高齢化が進んでいるため、マンパワーが不足しています。そのため、否応なしに地域の活動に巻き込まれますが、一緒に汗を流すことで地元に住む仲間として認めてもらえます。また、農業というのは、単なる職業・仕事というだけでなく、地域の生活と密着した側面を持ちます。自分の生業は地域の方々の理解や協力なしには成り立たないものだと考えているので、地域の活動にはできる限り、参加するよう意識しています。そんな風に生活しているせいか、玄関先や勝手口に、夏野菜や冬野菜がどかっと置かれていることがよくあります。時たま、誰がくれたかしばらく分からぬこともあります（笑）、ありがとうございます。

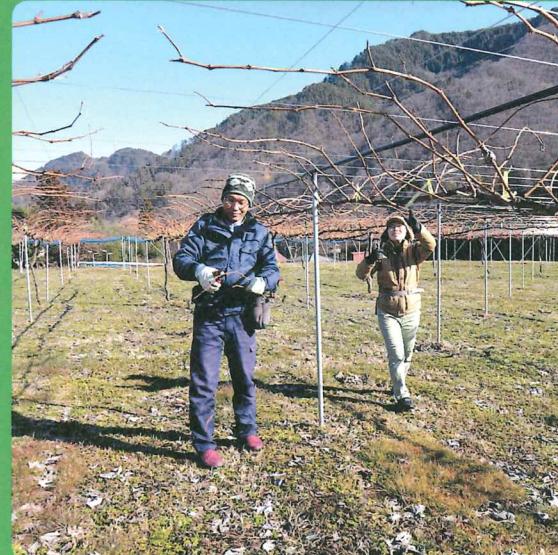
Q8.将来の夢や目標(仕事・家族など)についてお聞かせください

まず美味しいぶどうを作れるようになって、それで生計を立てられるようになることが直近の目標です。ぶどうの稼ぎで家を建てられれば満足ですね。のびのび育っている長男はこの先どう成長していくのか楽しみです。

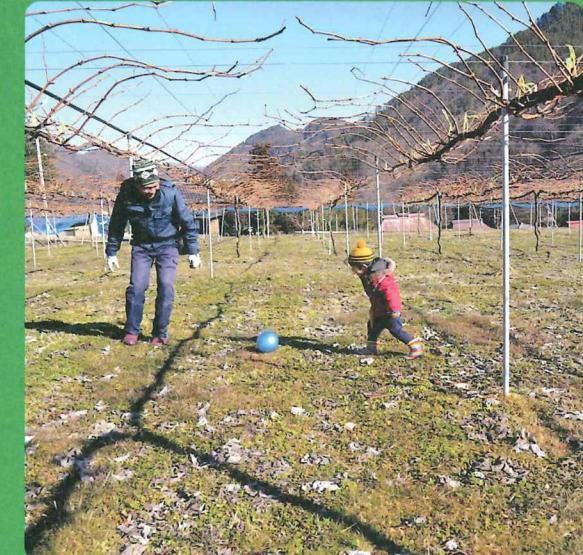
Q9.これから生坂村へ移住を検討している方へのメッセージをお願いします

ここでは生活の多くの人が自分の手の届く範囲にあって、ある意味、都市部の生活にはない安心感があります。地元の方々も、都市部で働いていた経験のある方が多く、我々のような移住者もオープンな感じで、近すぎず遠すぎない距離感で受け入れてもらっています。冬の寒さは厳しいですが、雪はそれほど多くなく、雪に慣れていないても困りません。あとは、9月から10月にかけてのぶどうの時期にでも是非一度足を運んでみて下さい。それでも迷いがあるなら、思い切って住んでみるのも良いかもしれません。来てしまえば、何とかなると思いますので（笑）。

阜さん一家が営むかもしかぶどう園のぶどうをお求めの場合は、道の駅いくさかの郷へお越しください。



↑冬は伸びた枝の剪定作業を行います。
どの枝に葡萄を実らせるか、
枝をよく見て剪定していきます。



↑畠は子供にとっては、絶好の遊び場!
土遊びからサッカーまで、おもいっきり遊べます。
春になればバッタや蝶もやってきます。
蛇やカモシカも来たりしますが…。



↑収穫前の畠。木漏れ日の中、手塩に掛けた葡萄が収穫を待ちます。
我が子に収穫される葡萄。一年の苦労も忘れる嬉しい瞬間。

特産品のぶどうブランド「イクサカラット」や郷土食「灰焼きおやき」など地元の農産物を販売する直売施設、生坂産の食材を使って郷土料理を提供するお食事処「かあさん家」が移転リニューアル、地域住民との交流の場として、どなたでも利用できる研修室・体験室も完備しています。また、休憩所、トイレ、観光案内等もありますので、気軽に立ち寄れる交流の場としてご利用いただけます。



地元住民とともに

100年以上も昔から生坂村で食べ続けられてきた郷土食「灰焼きおやき」。この地で長年、灰焼きおやきを製造、販売している勝家おやき店 甲斐澤(かいざわ)さんに聞いた生坂村での生活や子育てのこと。



近所の人や周りの方の助けがあってここまでやってこれた

創業34年の勝家おやき店。現在は3代目甲斐澤さんと娘さん、スタッフとで切り盛りをしている。おやきの具材はなす、野菜ミックス、野沢菜、つぶあんの4種類で季節によって切干大根、玉ねぎなどがある。誰もが驚くのは、その調理法。おやきを炭で熱した灰の中で蒸すのだ。生坂村は昔から水田が少なく、おやきやうどんを主食として食べてきた。昔はどこの家にも囲炉裏(いろり)があって、灰の中におやきを入れて転がし蒸し焼きにして、周りに付いた灰を落として食べてきた。別名「灰ころがし」とも呼ばれている。

甲斐澤さんに、長年お店を続けてこられた中で嬉しかったことや苦労したことを尋ねると「苦労はあまりないかしら、常連さんや村の方が優しいし温かいから。嬉しいのは、近所の方が薪や木の切り屑をお店で使ってと持ってきてくださること。あとお買い求めに来てくださる常連客の方はもちろん、村内の方は、ほとんどの方が顔見知りで、そういった常連客の方と顔を合わせて、話しが出来ることがなにより嬉しいわね。昔子どもだった子が大人になって、自分の子どもを連れて来てくれたり、長年やってきて、そういった多くの常連客や近所の人や周りの助けがあって、ここまでやってこれたと思っています。」と常連客と村民への感謝を、幾度となく話されていたのがとても印象的だ。店先で、お客様と交わす言葉を聞いていても、なんだか温かくて、こちらまでほっこりした気持ちになる。この村は小さい村だけど、そうやってお互いが助け合い、手を取り合って日々の生活が成り立っている。



勝家おやき店
住所:草尾13190
TEL:0263-69-3105
おやき購入の際は事前に
ご予約ください。

Village Ikusaka

生坂村の 主要施設など



住まいを探す

村営住宅、公営住宅

入居には一定の条件があります。
空き状況や疑問点は、
生坂村役場振興課建設係まで
お問い合わせください。

空き家バンク

村内の空き家で、賃貸借もしくは
売買を希望する物件を、
村の『空き家バンク』及び
『楽園信州空き家バンク』に登録し
村のホームページ等を通じて
利用希望者に情報を提供しています。

生坂村の 『空き家バンク』 公式サイト

移住者田舎体験ハウス

信州の自然豊かな場所で田舎暮らしを
したいと思っているけど、いきなり
移住するのは不安という方のために
移住体験ができる施設を用意しています。
1泊2日から最長1か月の
田舎暮らしを体験できます。



若者定住促進住宅

若い世帯や子育て世帯の方が
入居できる新築の住宅です。
※入居して12年経過すると
入居者の希望により払下げを行います。

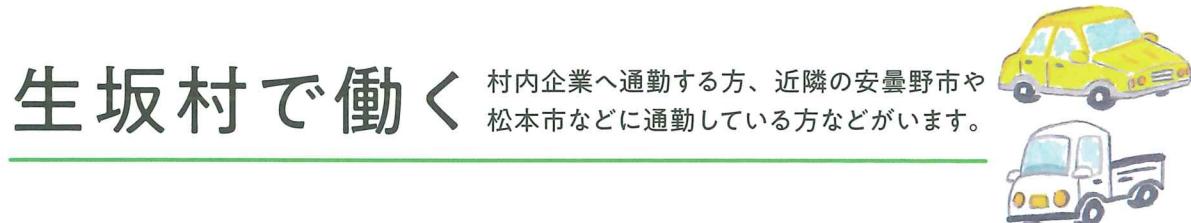


生坂村で働く

村内企業へ通勤する方、近隣の安曇野市や
松本市などに通勤している方などがいます。

農業研修制度

研修期間は基本3年間とし、地域の特産作物で
あるぶどうの栽培技術の習得を中心に、
地域の畑作物、水稻などの農作物全般の栽培
及び経営管理技術の習得を行っています。



特定地域づくり事業協同組合

当組合が年間を通じて正規職員を雇用し、
組合員である事業者の人手が必要な
時期に職員を派遣します。

地域おこし協力隊(いくさか大好き隊員)

生活道路の整備や農地の保全などの地域への支援はじめ、高齢者世帯への見守り支援や、
イベントや観光のPR、情報発信など地域の中でさまざまな業務を行っていただきます。
これらの活動は、人口維持、若者定住対策を促進していくための原動力となり、
豊かな自然や観光資源を生かした地域の活性化に向けた取り組みを進めています。

長野県の創業支援

長野県では、「日本一創業しやすい県づくり」を目指し、相談窓口での相談・助言、
ホームページやFacebook等による創業支援策などの情報提供、
各種創業セミナーの開催、地域の支援機関と連携による支援を行っています。



生坂村UIJターン就業・創業移住支援金

長野県と生坂村では、県内企業等の担い手不足の解消及び地域課題の解決並びに
首都圏等から長野県内への移住促進を図るため、東京圏（埼玉県、千葉県、
東京都及び神奈川県）、愛知県又は大阪府から移住し、県内で一定の
就業又は創業をしようとする方に対し、移住支援金を支給しています。



ハローワーク松本/安曇野市ふるさとハローワーク

職業相談や求人情報の提供など、
就職にあたってのさまざまな相談を行っております。
また、ハローワークインターネットサービスから
求人を検索することができます。



安曇野市ふるさと
ハローワーク
公式サイト

ハローワーク
イン터ネット
サービス

その他の求人情報・支援

長野県移住・交流センター（銀座 NAGANO 内）
長野県が行う移住相談とハローワーク長野が
行う職業相談を一体的に受けることができます。



銀座
NAGANO

長野県の移住の
ポータルサイト

リフォームして暮らす

村内の施工業者による住宅の新築、改築や改修を行う方に下記の各種補助金を交付します。
下記以外にも、耐震診断(無料)、耐震改修補助金、耐震シェルター設置補助金などがあります。



移住定住及び空き家対策事業補助金

空き家バンク制度を利用した移住者等に対し、空き家の改修・片付けや解体費用などを補助します。

対象経費の2分の1

空き家改修事業：上限500,000万円※

空き家整備事業：上限200,000円

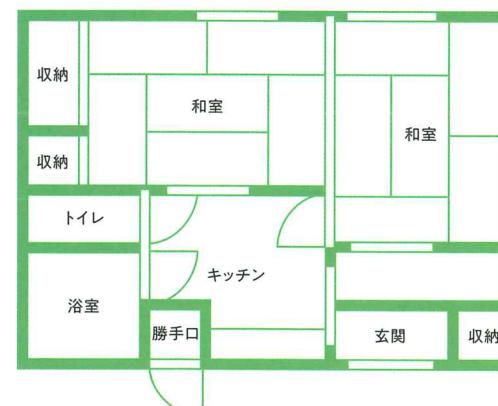
空き家解体事業：上限500,000円※

※子育て世帯は1,000,000円

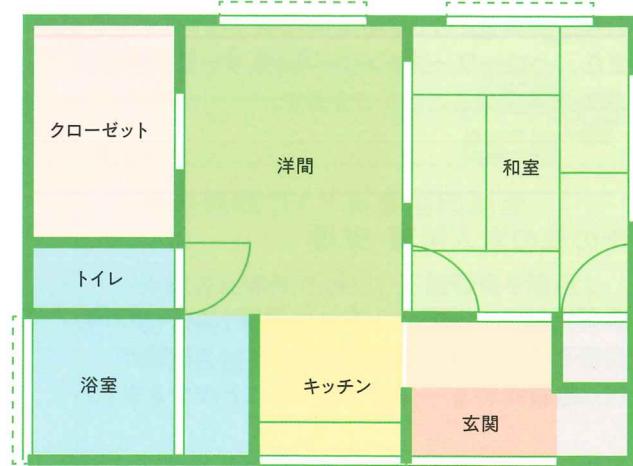


生坂村では、空き家資源の利活用を促進するため、快適な「住まい」づくりを目指し、「生坂リノベーション塾」を開催しました。実際に村所有の空き家を使い、リノベーションの過程を実演し、参加者にそのノウハウを学んでいただきました。今後も村ではリノベーション塾を開催していく予定です。

BEFORE



AFTER



今回リノベを行った物件

長野県地域発元気づくり支援金を活用し、
村が主体で村民向けに開催。
目的は上記に書いたとおり、リノベ及び
断熱のノウハウを学ぶために開催。
物件は、村所有の旧教職員住宅で、
空き家となっていた物件。築60年の平屋。

住宅リフォーム等補助金

住環境整備の推進と村内中小企業者を支援するため、村内の施工業者による住宅の新築、増改築や改修費用に補助します。(補助対象経費：20万円以上の工事費)

一般型：対象経費の1割（上限200,000円）

三世代型：対象経費の3割（上限300,000円）

UIJターン型：対象経費の3割（上限300,000円）

(中学生以下の子どもがいる世帯は上限1,200,000円)

子育て世帯型：対象経費の3割（上限1,000,000円）

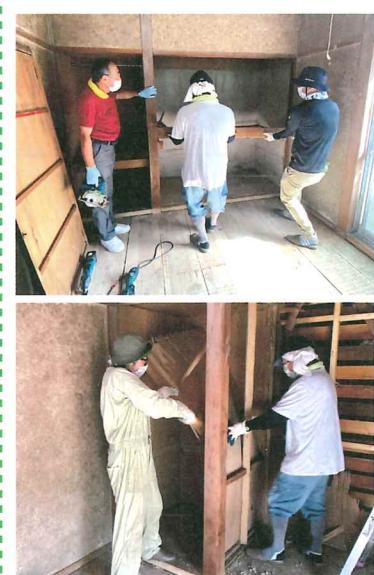
①こういう風にしたい！などの計画（イメージ）を立てます。もちろん一部分のDIYでも同じです。

②修繕箇所の測定をしたりして、必要なものをリストアップし、購入します。

工具も必要であれば購入！工具は作業を手助けしてくれます。

いざ、リノベーション開始!!

③不要な部分は壊して無くしたり…



④砂壁の石少を剥がしたり…



⑤畳をフローリングにするため土台となる木を入れていきます





生坂村で子どもを育てる

子育てよろず相談

子育てに対する不安や悩みの相談をお受けしています。個別相談や電話相談はもちろん、子どもを遊ばせながら、保健師や保育士に気になることを聞くことができます。

2歳未満に対するもえるごみ袋交付

2歳未満の乳幼児がいる保護者に対し、紙おむつの排出に使用するもえるごみ袋を、乳幼児1人につき年齢に応じて交付します。

お出かけ用品レンタル、子ども服のバザー

チャイルドシートベビーカーをレンタルします。子育て家庭の経済的負担を軽減するために、レンタルサービスします。子ども服等のバザーなども開催します。

生坂小太郎支援ノート

子どもの成長の様子が心配な方、保育園や学校などで特別な支援が必要な方のために、今までの経過を記録しておき、それぞれの関係者と共に子どもを支援していく時に役立つノートです。

未就園児の親子の交流広場 「ぴよぴよひろば」

未就園児の子どもとお家の方が、いつ来ても、楽しく遊べてホッとひといきつけるような場所を提供しています。毎日専任の保育士があるので育児相談もできます。

出産の相談や不妊治療に対する費用の助成

治療費の2分の1
(10万円を限度に)助成

妊婦健診費用に対する費用の助成

5回分2万5千円を限度に助成

結婚祝金の支給

婚姻届後、生坂村に5年以上定住意思のある39歳以下の夫婦に祝金を支給します。(1組10万円)

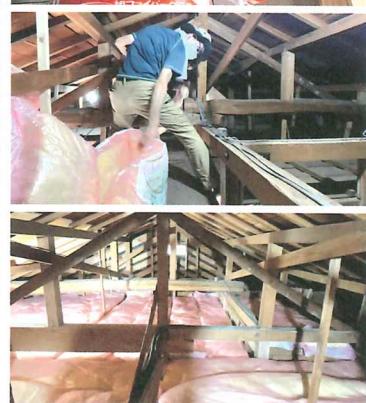
結婚新生活支援

新規に婚姻した39歳以下、世帯所得500万円未満の夫婦で、婚姻に伴う住宅取得、賃借費用、引越し、リフォーム費用に補助をします。
夫婦共に29歳以下：上限60万円
夫婦共に30歳以上39歳以下：上限30万円

出産祝金の支給

第1子:10万円 第2子:20万円
第3子:30万円 第4子:40万円
第5子:50万円

⑥天井にも断熱材を入れます



⑦床や天井を貼っていきます

しっかり長さを図って平行に

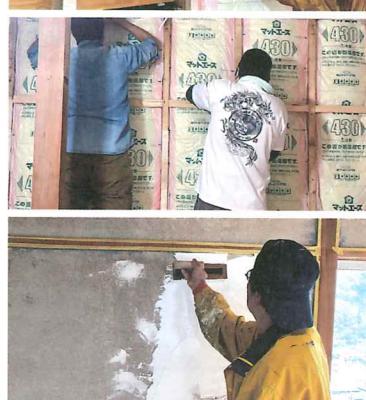


⑧壁などを塗っていきます

外壁はペンキにしました。
ほかのところが汚れないようにするマスキングテープが意外と大変!!
真夏も大変ですが、気温が低くなってくると塗料が乾きにくくなってしまうため、冬以外の時期にやるのが良いです。
また、先に繋ぎ目などはパテで埋めておきます。



未就園児の親子の交流広場 「ぴよぴよひろば」



⑩床は、木材を入れましたが、フロアクッションなどを敷いてもOK



最後に畳を新しくして…

完成！

※DIY中の事故には十分配慮し行いました。
※電気関係など、資格を有する部分については、業者へお願いしています。

子育て犀龍小太郎助成金

- ①不妊治療に対する費用の助成をします。治療費（自己負担分）の2分の1（10万円を限度に助成）
- ②妊婦健診費用の助成をします。5回分25,000円を限度に助成
- ③18歳までの子にインフルエンザ予防接種費用の助成をします。インフルエンザ予防接種費用を全額助成
- ④新生児の聴覚検査費用の助成をします。聴覚検査費用を全額助成
- ⑤出産に係る経費の内、各保険者の補助額を超えた金額を助成をします。80,000円を限度に助成

保育料の軽減と保育園・小・中学校の給食費の補助

多子世帯の第3子以降は、保育料（短時間保育部分）が無料です。
保育園・学校給食の給食費は無料となっています。

子育て世代の保育料と水道超過料金の補助

3歳児以上の保育料と18歳以下（高校卒業まで）の子どもがいる世帯の水道超過料金に補助をします。

医療費助成

18歳以下の方・障がい者・母子家庭・父子家庭の方等を対象に
1医療機関の窓口で1ヶ月あたり最大500円を支払うことで医療を受けることができます。

入学祝金

小学校、中学校、高校へ入学する子どもがいる保護者に対して支給します。
小学校入学時：3万円、中学・高校入学時：1万円

児童手当

0歳から3歳児未満 月額1万5000円
3歳から小学生 第1子、2子：月額1万円 / 第3子以降：月額1万5000円 中学生 月額1万円

村営バスの通学費の無料化

生坂村営バスを利用して通学する
中学・高校・短大・大学生のバス料金を全額減免しています。

放課後児童クラブ

保護者が労働等により、昼間家庭にいない小学生の子どもたち（放課後児童）に対し、
心身の健やかな成長を促すため、健全な遊びや生活の場を提供します。
また、学校の長期休業中は朝から利用することができます。

小・中学生は村営やまなみ荘入浴料が無料

生坂村の小・中学生は、保護者同伴でやまなみ荘の入浴料が無料です。

奨学金貸与

高校、短大、大学生の奨学金や入学一時金を一定の条件により無利子で貸与します。
(返済免除規定有り)

さまざまなスポーツ施設の利用料が無料

村民ならB&G海洋センターの体育館、プール（夏期）、トレーニングルームなど、
さまざまなスポーツ施設の利用料が無料です。

生坂保育園

長野県の「信州やまほいく」（信州型自然保育）の認定を受け、自然や地域の中での体験活動を通じて、自ら学び成長しようとする力を育む保育を行っています。

児童館（子育て支援・0～18歳未満の子どもが対象）

子どもの生活や遊び・学び・健康・情操を豊かにするため、「マラソンクラブ」や「えいごであそぼう」などの放課後子ども教室を行っています。
また、子育て中の保護者同士の交流や子ども達と一緒に遊べる場にもなっています。

小学校・中学校

「故郷生坂を想い生坂村と共に生きようとする人材の育成」を村の教育目標にして、
小規模校の利点を生かした、きめ細やかな教育や社会に出たときに必要な心身のたくましさを身につけます。

子育て支援センター「なのはな」

「遊び」「交流」「相談」「学び」「預かり」「団らん」ができる施設です。センターは妊婦さんから、18歳までの子どもをお持ちの親子まで、そのご家族や子育てをサポートしてくれる多機能施設です。保育園、小学校は全て自園、自校給食です！地元でとれた新鮮な野菜を使い、できたてほかほかの給食は、子どもたちの健全な発育と豊かな心を育みます。

給食センターの
インスタグラム



妊娠から出産、
子育てまでを
フルサポート

いくっ子ナビ

